

大東市立歴史民俗資料館 資料解説シート

遺跡紹介

大東市指定文化財 第12号 市指定史跡

堂山古墳群（どうやまこふんぐん）

堂山古墳群は大東市東部の寺川にある、古くから「堂山」と呼ばれる地域に所在しています。堂山には「金の鶏がこの山に埋まっていて正月の朝に鳴く」という伝承が残されています。

古墳群は生駒山地から派生する尾根上に築造された古墳7基で構成されており、1号墳は標高78mの丘陵先端部に独立して築かれています。2号墳から7号墳は、1号墳から北東に約100m離れた標高90mから100mの丘陵上に位置します。

昭和44年（1969）、大阪府営水道の配水池の建設予定地において、埴輪・鉄刀等の遺物が発見されたことを契機に大阪府教育委員会によって発掘調査が実施され、さらに昭和47年（1972）に丘陵全体の発掘調査が行われて古墳群の全体像が明らかになりました。地元住民の要望を背景に関係者が協議し、平成24年に大東市が史跡として指定し、大阪府広域水道企業団の協力を得て、大東市立堂山古墳群史跡広場として整備し公開しています。



堂山古墳群 位置図
(国土地理院作成地図に加筆)



1号墳～7号墳 古墳分布図
(発掘調査報告書より転載・加筆)

1号墳は5世紀前半に築造された直径25mの円墳で墳丘の周囲には円筒埴輪がめぐり、朝顔形埴輪や形象埴輪も発見されています。墳丘南西裾の平坦部分では土器が集中して出土しており、ここで祭祀が行われたと考えられます。主体部には主棺と副棺が置かれ、主棺内からはヒスイの勾玉やガラス玉などの装身具と滑石製の紡錘車、棺外からは鉄製の短剣が出土し、副棺からは鉄鎌や鉄刀、甲冑などといった鉄製の武器や武具、鍬やヤリガンナなどの鉄製農工具が出土しました。1号墳の被葬者はヤマト王権により武器・武具を与えられた武人的性格を持つこの地域の有力者であったと考えられます。

2号墳～7号墳はいずれも小規模な墳丘で横穴式石室を主体とする6世紀末～7世紀中頃にかけて築造された古墳です。3号墳からは須恵質陶棺（焼物の棺）が出土しています。4号墳は朝鮮半島北部に類例のあるT字形横穴式石室を有しています。5号墳と6号墳は外護列石と墳丘を共有していることから、両古墳の密接な関係を伺うことができます。

1号墳とその他の古墳の築造時期には約200年間の差があり、被葬者の関係性はわかりません。2～7号墳は、いずれも近い時期に築造されたことから被葬者の系譜を追うことができます。



堂山古墳群全景 西から
(手前が1号墳、左奥が2～7号墳 写真提供：大阪府教育委員会)



堂山1号墳出土 甲冑
(府指定文化財、写真提供：大阪府教育委員会)

【古墳一覧表】

古墳	築造時期	墳形	規模	主体部	備考
1号墳	5世紀前半	円墳	25m	木棺直葬	組合式箱型木棺
2号墳	6世紀末～7世紀前半	円墳	18m	両袖式横穴式石室	須恵器の小破片
3号墳	6世紀末～7世紀前半	不明	不明	無袖式横穴式石室	須恵質陶棺
4号墳	7世紀中頃	不明	不明	T字形横穴式石室	鉄釘、須恵器
5号墳	7世紀中頃	円墳	10m	無袖式横穴式石室	人骨(1体分)
6号墳	7世紀中頃	円墳	10m	無袖式横穴式石室	
7号墳	不明	不明	不明	不明	